九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[057_05/06] 經濟學研究表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/4492915

出版情報：經濟學研究. 57 (5/6), 1992-09-10. 九州大学経済学会
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

序

武野秀樹教授は平成２年12月５日，めでたく還暦を迎えられた。九州大学経済学会は心から祝意を表し，ここに記念論文集を刊行する運びとなった。幸いにして，教授と親しい外部の研究者からの５篇の寄稿を得て一層充実したものとすることができた。

武野教授は昭和28年，九州大学経済学部を卒業後，ただちに同大学大学院（旧制）へお進みになり，研究者としての道を歩まれることとなった。その後，九州大学経済学部助手・助教授を経て，昭和45年九州大学経済学部の貨幣論及び金融論講座担当教授に就任され，昭和49年同学部経済学原論担当教授に，さらに，昭和54年４月経済工学科新設にともない，同学科計量経済学講座担当教授に就任された。教授は平成３年３月九州大学を退官され，現在，九州産業大学商学部教授として活躍されている。この30有余年間に亘る教育と研究を通じ，豊かな学識と暖かい研究指導によって多くの有為な人材を世に送るとともに，経済学研究に多大の貢献をされた。

教授の研究は，国民所得とその関連概念の社会会計的基礎の明確化をめざして始められ，国民所得水準の理論，その拡張としての産業連関分析，実証分析としての新古典派成長論，さらに，規模分析としての最適成長論などの分野に挑戦され，それらの研究の成果は当時における数理経済学の最先端分野への挑戦として，現在でもこの分野の必須の文献として高く評価されている。また，国際連合が新しい国民勘定体系を完成させるにおよんで，この新体系の内容を厳密に検討され，その分析結果は，著書『国民経済計算の基礎』，『国民経済計算』にまとめられた。これらの公刊によって国民経済計算の理論分析における学会での第一人者としての地位を確立された。

教授は，学内行政においても，経済学部長，評議員その他の要職を歴任され，学部及び九州大学の管理・運営に多大の貢献をされた。とくに，昭和52年における経済工学科の設置，続けて経済工学専攻の大学院設置にあたって，指導的役割を果たしたメンバーの一人として，その後の経済工学科での研究・教育の発展の大きな基礎を築かれた。さらに，学外にあっては，理論・計量経済学会理事，西日本理論経済学会代表幹事など多くの学会活動を通じて学問研究の発展に寄与された。

御還暦とはいえ，教授は益々お元気であり，学問への情熱を燃やしておられる。ここに教授の還暦記念論文集を編むことができたことは，まことに慶ばしい限りであり，教授の一層の御健康と御活躍を祈念する次第である。

平成４年４月

九州大学経済学会長

森　本　芳　樹